

レンタルディング®で時代を拓く

AKTIO

AKTIO

August
No.26

Communication Magazine

■ AKTIO TOPICS

会場の様子をレポート!

CSPI-EXPO2022

広域レンタル会社で初!
サイレントパイラー®レンタル開始!

株式会社技研製作所と業務提携

中国四国地区の総合整備工場・物流拠点!

広島テクノパーク統括工場

■ AKTIO ACTIVITIES

小学生向けSDGsイベント

AKTIO×いなべ市

SDGs体験ワークショップを開催

KEY PERSON

に聞く

AKTIOの「なりたい姿」を実現するために。

DX化を担う ITグループの牽引力。

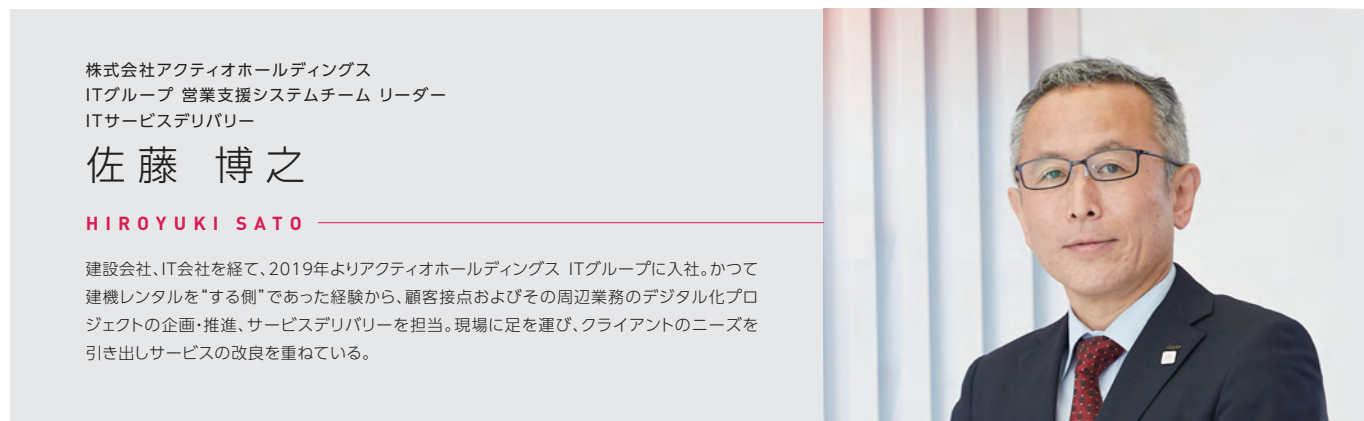


株式会社アクティオホールディングス 取締役 CIO
ITグループ長 DXグループ長 経営指標管理グループ長
株式会社アクティオ 常務執行役員 業務改革推進委員長

井原 宏尚

HIRONAO IHARA

医薬品メーカー、化学メーカーのIT部門を経て、2017年アクティオホールディングスに入社。製造業のIT部門で培った経験を活かし、業界の方向、社会の流れを見極めながらAKTIOのビジネス×デジタル化の価値を最大限にすべく日々他部署と連携しながら戦略立案を行っている。IT部門、DX部門、経営指標管理部門の部門長を担当。



株式会社アクティオホールディングス
ITグループ 営業支援システムチーム リーダー
ITサービスデリバリー

佐藤 博之

HIROYUKI SATO

建設会社、IT会社を経て、2019年よりアクティオホールディングス ITグループに入社。かつて建機レンタルを“する側”であった経験から、顧客接点およびその周辺業務のデジタル化プロジェクトの企画・推進、サービスデリバリーを担当。現場に足を運び、クライアントのニーズを引き出しサービスの改良を重ねている。

「新しいシステムの導入やプロジェクトを進める上で大事にしている点がありますか？」
井原 「システム化して改善したいこと」はたくさんありますが、視界に入ったものや、ITを担当されている業務についてお聞かせください。
井原 私の担当はIT領域ですが、今やITを使わない仕事はないので「ITはビジネスの映し鏡」と言われていて、ビジネスの全体像を見渡しやすいという特性があります。社内の仕事内容を二つ二つ見ていくと非常に複雑ですが、ITという鏡に映ったものを見ると抽象化できます。例えばExcelの使い方は色々ですね。ITを通すと「こういう類の仕事はExcelを使う」という具合に抽象化できます。会社のビジネスを抽象化して構造的に捉えらる、システム化されていなかったりシステムがつながっていない分野がわかるので、「システム化による高度化の余地あり」という部分が見えます。
AKTIOは会長をはじめとする経営層が常に「攻め」の姿勢で新しいチャレンジに抵抗がない人たちがかりで、「こんな姿になりたい」というイメージを持っています。経営層で「なりたいたい姿」を共有し「こんな伸びしろがあって、こんな未来がある」とディスカッションしながら、そのために必要な変革を優先順位付けし、先ほどお話ししたシステムを使った高度化を重ね合わせて、デジタル化のプロジェクトを企画しています。



やり易いものから手を付けてしまうと、どこに向かうのかわかりませんし、痛みが和らいでしまいできるはずだった変革のチャンスが失いかねません。そうならないように、まずは「なりたいたい姿を考え、ゴール少し手前の未来を考え、さらにその少し手前の未来を積み重ねながら逆算してなりたいたい姿への道のりをイメージします。」
私たちAKTIOの社風は「こんな未来がありますよ」という話が非常にしやすい環境です。「そんなことでいいよ」という人が多かったり、メリットの方が大きいのにデメリットがあることを理由にやらないなんてよくある話ですが、当社はそうではなく、新しいことにチャレンジする風土があります。しかもその決断がとても速い。「スピードはいろいろな課題を解決する」のでこれも大きな長所です。これらの長所を最大限生かしたいと思っています。

KEY PERSON

に聞く

AKTIOの「なりたいたい姿」を実現するために。さらなるDX化を担うITグループの牽引力。

AKTIOは近年、さまざまなお客様の要望に応えるべく最先端の技術を取り入れたICT対応機器の導入や、Web注文サービスを代表とするDX化の取り組みに力を入れてきた。AKTIOの「レンサルティング®」とDXが組み合わされることでより一層、現場の安心安全と効率化、さらには省人化による人手不足の解消といった建設業界の課題解決へとつながっていく。これからももっとお客様の役に立つために、AKTIOのサービスはどう進化していくべきか。AKTIOの常務執行役員 業務改革推進委員長であり、株式会社アクティオホールディングス取締役 CIO ITグループ長 DXグループ長である井原宏尚常務と、株式会社アクティオホールディングス ITグループ 営業支援システムチーム ITサービスデリバリー 佐藤博之リーダーから話を聞いた。

例えばWeb注文サービスは、プログラミングせずで作れるクラウドサービスを利用しています。自社で「からプログラミングした方が細部まで理想に近い形にできますが、スピード感が全然合いません。クラウドサービスだとそれなら来週できます」ができますし、プラットフォームの進化が圧倒的に速い。「一緒にチャレンジしてくれる仲間」X「なりた姿の幹となる、必要最小限の機能への絞り込み」X「短期間で作れるクラウドサービス」の掛け算で、短期間でサービス開始できました。

Web注文サービスのプロジェクトは本誌No.23でも紹介しました。その後、お客様からのお声などいかがでしょうか。

佐藤 おかげさまでうれしい感想ばかり頂戴しています。利用率が低いという課題はありますが、AKTIOの担当営業に電話が繋がらない時間帯に使用して便利だというだけでなく、電話でのやりとりにはない価値を感じています、というお声の方が多いです。それは「現場での情報共有がスムーズになった」というもの。レンタル中のものや過去に借りたものなども確認できますので、Web注文サービスのサイトを見てもあれば現場の誰もがレンタル機器の状況を把握することができます。次に借りる機械やタイミングについて当社営業と相談していただく際もWeb注文サービスの稼働リストがあれば把握しやすいと思います。働き方に変化があった、というお声もありました。そういう点に価値を見出し

ていただけるのはとてもうれしいことです。やったことの手応えがこんなに大きい仕事は今までなかったですし、少し大げさかもしれませんが世の中を変え得るようなことにつながる、AKTIO内にとどまらない効果があったのかなと思います。

今年の大きな方針として、お客様の仕事のやり方自体が変わり、効率化につながることに焦点をあて、新たな機能をリリースしようと考えています。お客様は当社からの月1回の請求のタイミングで納品伝票の突き合わせをするのですが、その必要がなくなるというものです。納品伝票の突き合わせには膨大な手間がかかりますが、結果としては納品数などの「数字が合っていることがわかる」だけなのです。それであれば膨大



な手間をかける代わりに自動的に数字を突き合わせますというサービスなのですが、早く価値提供するために、まだシステムがない状態で営業所の方々に助けてもらって、手入力で行ったところ、お客様の評判がとてもよいので、システム化しました。

「予定されている新サービスはありますか。」

井原 Web注文サービスは「お客様と当社の業務プロセスをつないで効率化する」取り組みですが、仕入先とも業務プロセスをつないで効率化し、さらにその先には、お客様と仕入先をつなぐプラットフォームになりたいと考えています。

当社とお付き合いたいでいる仕入先には、配送会社4,000社以上、整備工場



1,200社以上があり、毎日膨大な配送や点検をお願いしています。この配送会社などの協力がないと我々はお客様に価値提供できませんし、今後もアクティオグループの成長に応じてもっと多くの案件を行っていただきたいのですが、少子高齢化や法令対応等もあり、お互いに生産性向上が喫緊の課題となっています。この課題解決のため、配送会社や整備工場とのやりとりをデジタル化して効率化する全社展開プロジェクトをそれぞれ進行中で、支店・営業所やグループ会社のメンバーが工夫しながら進めています。

佐藤 外部の協力会社との関係をデジタルにしていくなサービスは、配送会社、整備会社とのシステム化が必要であり重要なポイントです。取引のある整備工場が700社ほどございますが、AKTIOとの仕事のやり方の変化を対面でじっくり説明したうえでプロジェクトに参加していただける整備工場を募り、必要な情報をデータ化しました。これはたくさん仲間、密に連携が取れる協力会社の方々とつながりがなければとても実現できなかったと思います。お客様との関係性をDX化していくことはWeb注文サービスで叶いました。そして、協力会社とのDX化が実現すれば結果的にはお客様のため、ますます便利なAKTIOになれるという手応えを感じています。現在トライアル中ですが、諦めずにごこまでたどり着けてよかったと思っています。

AKTIOのDX化で大切にしたいことと、新たにチャレンジしたいことを教えてください。

井原 AKTIOは「現場」に支えられている会社だと実感します。当社の1か月間のデータ件数は1億件を超えています。これだけのデータを生み出すよう基幹システムに入力してくれているわけです。BtoBビジネスとしてはかなりのボリュームで、如何に現地の社員が努力しているかがわかります。この現場の努力が生み出している価値を最大化したい。

例えば、当社のWeb注文サービスは、注文データを基幹システムに接続して在庫を引き当てる自動化はしていません。その理由は、当社がお客様に提供している価値の多くをフロント(※)のみなさんが生み出していて、自慢できる強みだと思っているからです。



当社のフロントは在庫を引き当てるロボットのような仕事をしているわけではない。お客様や工事現場の状況に合わせて、より高い価値を提供している。その価値を最大化したいので、在庫の自動引き当ては技術的には可能ですが敢えてやらず、フロントに介在してもらう仕組みにしています。

また、当社はITとビジネスの距離がとて身近だと思います。かつて医薬品メーカーに勤務していた時は営業マンやお医者様と会話することなどありませんでした。でも今は現場の仲間や建設会社の方と直接会話ができるので、自社だけでなくお客様や仕入先も含めたバリューチェーン全体を良くするチャレンジのイメージが広がります。

佐藤 私は、もっとお客様とのコミュニケーションをとっていききたいと考えています。展示



会や、講演会などもあるのでそういった場で知り合った方々からもご意見を頂戴し、自分のアイデアに付加していきたいと思っています。また、現在進行中のWeb注文サービスをはじめとする案件でも、お客様と一緒にトライをし、会話しながら新しい働き方を作っていく。そのようなことができたなら最高だなと思います。また、これまでの案件をもとに、「建機レンタルのサブスクリプション化」にもチャレンジしていきたいです。井原常務は新しい視点、戦略部分で導いてくれることが多いので、私はそれにワクワクしてしまつて、何とかして実現させたいという気持ちになるんです。今後お話を聞いて、面白そうだなと思った案件はどんな形にしていきたいですね。

井原 いろんなことにチャレンジする時、「楽しく仕事をする」ことが大事だと思っています。世の中を良くすることは簡単ではありませんが、仲間とチームワークを駆使し、会社をもっと良くしていくことはできます。アクティオグループは世の中の役に立つ会社なので、会社を良くしていけば、まわりまわって世の中を良くすること貢獻できると信じています。仕事は決して楽ではない辛いこともあります。そんな未来のための道のりだと思えば、それも楽しい。自分だけではできないことをチームワークで成し遂げ、チームや自分が成長し、事業も成長する。みんなで作っていくそんな未来を考えるとワクワクします。

※フロント…お客様のご注文に対する最適な商品選定や効率的な運送管理、機械運用を主とする営業拠点の窓口



AKTIOが誇る最先端の機械やサービスを出展！ 建設・測量生産性向上展

2022年5月25日から27日の3日間、幕張メッセ(千葉市美浜区)にて第4回建設・測量生産性向上展(CSPI-EXPO2022)が行われた。
次世代の建設現場を担う最先端技術が集結、建設生産システムの各工程で日々進化しているデジタル化やロボット技術の最前線を体験できる大規模な展示会として、約330社約1,800ものブースが出展。
AKTIOは屋外・屋内の2か所にブースを設け、昨年同様、展示ブースの模様をLIVE配信した。
「現場環境の改善」と「業務効率の改善」に貢献する最先端の機械を、たくさんの来場者、視聴者に向けて紹介することができた。

CSPI-EXPO

AKTIO TOPICS. 1



3tまでの機器の運搬・据付を1台で行う搬送ロボット「エコカ」。運搬する機器のサイズや現場の通路状況に合わせて、X・Y・Zの3方向に伸縮する。X軸(横)は1.8〜2.4m、1.4〜1.8mを選択可能で、Y軸(奥行き)は3.0〜3.7m、Z軸(高さ)は2.0〜3.2mの範囲内となり、走行モードは四輪操舵、横行、その場旋回の3種類となる。例えば、ある清掃工場で適用したケースでは、約2tの機器据付工程にて60%の省人化、85%の時間短縮に成功した。想像以上に軽快な動きで、来場者の注目を集めていた。

■EcoCa (エコカ)

※参考出展

可搬式のガラ処理機で、ハイブリッド駆動方式を採用しているため、低燃費。走行部と歯の調整以外は、油圧を使っていないため、メンテナンス性にも優れている。液晶パネル、リモコンで操作可能。



■ガラ処理機／可搬式 (ジョークラッシャー)



●オフグリッドシステム搭載移動レストカー
以前から好評のオフグリッドオフィスカーが、女性でも運転しやすいミニバンベースで登場。トイレ、シンク、レストルーム付き。ソーラーパネルとリチウムイオンバッテリーで独立稼働でき、エンジンをオフにしてもクーラーが使用可能。



■オフグリッドシリーズ

建設DXの具体化へ！AKTIOの技術の数々。



■「体表面温度計測プラス顔認証」
専門管理システム
体表面温度計測と顔認証による入退場管理システム。認証スピードは約1秒、他システムとの連動ができインターネットにつなぎ、離れたところで二元管理が可能に。



■Safety Training System VR of AKTIO
作業中の不安全行動をVRで体験できるシステム。歩行用デバイスを扱い、省スペースかつ転倒することなく、疑似体験ができる。たくさんのお客様から体験希望があり、ブースは大盛況であった。



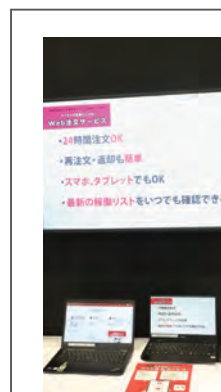
■小型海水淡水化装置

世界最小クラスで持ち運び可能な海水淡水化装置。わずか1時間で海水を約50〜60ℓ浄水することができ、100V駆動で小型の発電機での運用も可能。水の確保が難しい場所



●オフグリッドシステム搭載
移動オフィスカー(軽バン仕様)

低コストで導入可能、小回りの利く車体に大容量リチウムイオンバッテリーを搭載した軽自動車オフィスカーは、業務効率改善のため、モバイルオフィスとして使いやすい設計に。とにかく無駄を省きリーズナブルに利用してもらえるよう開発された。



■アクティオ建機レンタル
Web注文サービス
スマホ・PC・タブレットで24時間建設機械レンタルの注文をすることができ「Web注文サービス」はAKTIOオリジナルのサービス。初期費用、利用料など一切からWeb上で注文、返却が可能。稼働リストのダウンロードが可能なので、今レンタルしている機械のリストをいつでも入手できる。



■重機の遠隔操作
幕張メッセの会場と約50km離れた茨城県にある現場を4G回線で結び、オペレーターが1人でバックホーとキャリアダンプを操作するデモンストレーションを行った。かなり遠い距離でも0.13〜0.2秒と、ほぼ誤差のない操作感でズレを感じない。火山の噴火の恐れがある場所など、危険のある場所の作業も安全に行うことができる。



■クローラー型台車 (アクロスAKT-600)

悪路やさまざまな路面を簡単に進めることからネーミングされた。足回りがクローラーで、接地面積が大きい安定した走行が可能で、芝生のような場所でも抵抗が少なく、段差は難なく乗り越えることができる。また、鉄筋の隙間も穴にはまることなくすいすい押せる。*P11で詳しく紹介しています



■マジックシャッター (ホコリ飛散間仕切りシート)

リニューアル工事等で活躍するホコリ飛散間仕切りシート。

従来の方法だと1時間かかっていた養生作業が、作業員2名で約5分で設置可能。繰り返し使えて、コンパクトにできる。

防音・防災・採光性能を有したシートで、ホコリの飛散を防止する。
*P11で詳しく紹介しています

無振動・無騒音での杭打ちを実現した 杭圧入引抜機、サイレントパイラー®

「サイレントパイラー®」は、圧入原理を世界で初めて実用化した油圧式杭圧入引抜機。圧入原理とは、すでに打ち込まれた杭を掴み、その引き抜かれまいとする抵抗力（反力）を利用して機体を固定し、油圧による静荷重で次の杭を押し込む原理。打撃式や振動式の杭打ち機と異なり、周辺住民や環境に影響を与える振動、騒音が小さく、地盤を乱さず汚泥が発生しない。杭を圧入すると機体を上に持ち上げる反作用力が働くことから、例えば100tの圧入力をかけた場合、通常ならば機体を固定するのに100t以上の重量が必要となり、機械は巨大になる。一方、圧入原理を用いる「サイレントパイラー®」は自重に頼らずに反力を活用して機体を固定するため軽量、コンパクトで、都市部や住宅地でも建設公害を出さずに施工が可能。

POINT

建設公害を出さない、地球に優しい建設機器

圧入原理は「地球にしっかりと支えられた完成杭を構築できる」ことに加え、以下の優位性を有している。

環境性

静荷重で杭を押し込む方式のため、騒音や振動などの建設公害を発生させない。

圧入機は軽量コンパクトなため、工事の影響範囲は最小限に抑えられる。

安全性

圧入機は常に圧入した杭を掴んでいるため、原理的に転倒の危険性がない。

工場生産された既製杭を直接圧入するため、高品質な完成杭を安定して構築できる。

急速性

圧入機は小型で圧入工程がシンプルなため、複数機の同時稼働に適し工期を短縮できる。

規制の厳しい地域や夜間でも工事時間帯の制限を受けることなく施工できる。

経済性

工事の影響範囲が狭いため、交通渋滞などを発生させず地域の経済活動を阻害しない。

目的の機能に合った杭を工場生産し、現場作業を合理化することで効率化が図れる。

文化性

圧入杭を正確に制御できるため、複雑な施工形状でも高精度に構築できる。

施工中の杭の性能を確認・制御できるため、高品質な完成杭を構築できる。



広域レンタル会社で初！サイレントパイラー® レンタル開始！

株式会社技研製作所と業務提携

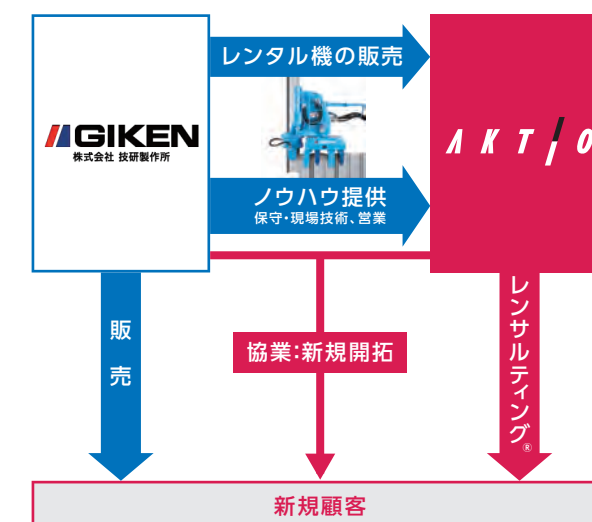


AKTIOは、株式会社技研製作所と、杭圧入引抜機「サイレントパイラー®」のレンタル領域に関し、業務提携を締結した。

今回の業務提携により、これまで販売が主流だった「サイレントパイラー®」を、広域レンタル会社としてAKTIOが初めて導入し、レンタルを開始する。2022年5月には、東京パイラーセンター（技研製作所東京工場内/東京都足立区）を開所した。技研製作所の整備技術の拠点となる場所に東京パイラーセンターを設けることで、杭圧入引抜機「サイレントパイラー®」の業務研修や整備インストラクターの指導を受けることができるようになる。また、豊富な知識や技術力の高い、技研製作所のエキスパート社員に協力いただくことで、お客様に対するきめ細やかなサービスを提供していく。

技研製作所は、圧入原理を実用化した「サイレントパイラー®」を製造開発し、その多彩な優位性を活かしたソリューションを提供する建設機械メーカー。1967年、「公害対処企業」を掲げて創業。高度経済成長期の建設公害が社会問題化する中、1975年に無振動・無騒音の「サイレントパイラー®」を開発し、建設公害の元凶と言われた杭打ち工事による振動、騒音問題を解消する工法を創造した。

AKTIOは、日本全国に広がるネットワーク力を通じて「サイレントパイラー®」のレンタルでの活用を広く展開していくとともに、AKTIOと技研製作所との業務提携によるシナジー効果を最大限に高め、さらなる挑戦と成長を図る。今回の提携を通じ、①工法普及（サイレントパイラー®を使用した圧入技術を新たな工法として広く提案）、②適用分野の拡大（AKTIOの業務分野にて活用することで従来よりも適用範囲を拡大）、③新規開拓（多くのユーザーに提案を実施）を目指す。



AKTIO TOPICS. 4

繰り返し使えるホコリ飛散間仕切りシート

「マジックシャッター」をレンタル開始 間仕切り養生施工の工数と資材使い捨てを削減

AKTIOは、工具不要で簡易に組み立て・解体ができる間仕切りシート「マジックシャッター」の本格稼働を3月23日より開始した。

「マジックシャッター」は明治商工株式会社と共同で、リニューアル工事や内装解体工事の間仕切り養生を、より簡単に組み立て・解体することを目的として開発した。従来のブルーシートやテープを使った間仕切りとは違い、繰り返し使用でき、資材の無駄を防ぐことができる。工具が不要で、2名で簡単に組み立て・解体することができるため、短時間で大空間の間仕切りが可能だ(18mを約30分で施工／AKTIO調べ)。水平器の付いたつっぱり棒をレールに設置するだけで床と天井との隙間をしっかりと塞ぎ、気密性の高い間仕切りができる。

特長

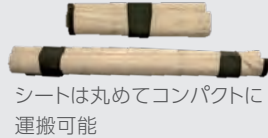
- 工具不要で2名で組み立て・解体ができる
- 水平器付きで簡単に組み立てやすい設計
- 防音、防火、採光性に優れたシートでホコリの飛散を防止
- マジックシャッター900はファスナー付きで出入りも簡単
90度に曲げてコーナーとしても利用可能
- 繰り返し使え、運搬時は丸めてコンパクトに



2名での
組み立て風景

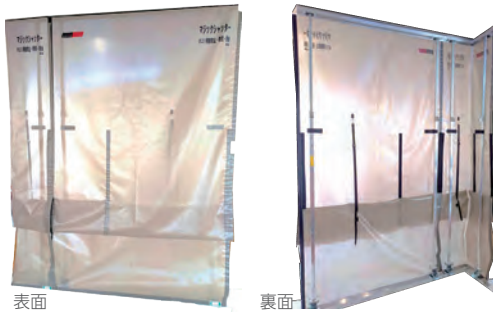


マジックシャッター900は、
ファスナー付きで便利



シートは丸めてコンパクトに
運搬可能

商品の詳細はこちらのQRコードから▶



表面

裏面

商品コード:T73

AKTIO TOPICS. 5

敷鉄板の段差や現場の悪路でもらくらく走行

クローラー型台車「アクロス AKT-600」をレンタル開始



AKTIOは、配筋やデッキプレートの上、敷鉄板の段差でもスムーズに移動できるクローラー型台車「アクロスAKT-600」のレンタルを2022年4月21日から開始した。

「アクロスAKT-600」は、従来のキャスター式台車では難しかった段差や悪路などの運搬シーンで負荷を掛けずに荷物を運ぶことができます。荷台は全長600mm×全幅1,000mmで、最大積載荷重は150kg。ハンドルは取り外しができ、大きな荷物の運搬も可能にした。配筋、デッキプレートの上、敷鉄板の段差などへの対応はもちろん、砂利・土・泥・石畳・砂・草・雪など、建設現場や土木現場のさまざまな厳しい路面環境でも負荷を軽減しながら大型の荷物搬送などができる。

商品の詳細はこちらのQRコードから▶



走行性能・安全性・特長



配筋の上も走行可能



土/泥など悪路もOK



輪止めを完備



ハンドルは取り外し可能



クローラー部分の丸洗いが可能

AKTIO TOPICS. 3

ドローンによる屋内外の巡回監視を可能にした

ビム・クロス・ドローン

屋内外自律飛行システム「BIM×Drone」の 技術検証サービスを開始



AKTIOは、株式会社竹中工務店、株式会社カナモト、株式会社センシンロボティクスとともに、BIM※1を用いたドローンの屋内外自律飛行システム※2の実証試験をかねてより実施しており、2022年2月より、屋内外自律飛行システムを搭載したドローン「BIM×Drone」の技術検証サービスを開始した。

これまで、一般的なドローンはGPS等の衛星測位システムによって機体位置を測位し、ほかのセンサーと連携しながら自動飛行するため、屋内や地下、トンネル内部、橋梁の下、タンク内部など衛星電波の受信が難しい場所では測位が難しく、誤差が大きくなるといった課題があった。また、非GPS環境において自己位置測位が可能な機体を用いた場合でも、機体自己位置とマップ上の機体位置を合わせ、直感的なルートを設定できない点がボトルネックになっていた。

「BIM×Drone」は搭載したステレオカメラによるVisual SLAM※3技術とBIMを用いてBIMデータ上に飛行経路を設定することで、衛星電波が届かない建物内においてもドローンの安定飛行を実現。屋内の壁や障害物などの特徴をリアルタイムで捉えながら、自己位置を把握して自動飛行する。3Dモデルを配置した地図上でルート設定や機体位置表示が可能となり、ユーザビリティが格段に向上する。

「BIM×Drone」の技術検証サービスは、建設中物件の進捗管理業務、大型商業施設などの巡回点検業務を実現するためのもので、まずは「BIM×Drone」が、お客様が想定する運用方法にマッチするか、有償の技術実証試験を行い、その後の運用テストを経て屋内ドローンの本格運用までをサポートする。

※1 コンピューター上に作成した3Dモデルに複数の図面を生成し、設計から施工、維持管理までのあらゆる情報を一元化して活用する手法のこと。

※2 実証試験を実施したシステムは、株式会社センシンロボティクスのSENSYN CORE。

※3 カメラで撮影した映像から自己位置推定と環境地図作成を同時に行う技術のこと。



飛行イメージ

商業施設内での巡回点検など、従来はドローンの運用が難しかった場所でも使用可能に



BIM×Drone運用管理ソフト

BIMの3Dモデル配置、航路設計を行える「SENSYN CORE(センシンコア)」。大規模な建設現場での自律飛行に欠かせないプラットフォーム



使用機体

狭小空間でも安定した飛行を実現する「ACSL Mini」。小型でトップクラスのスペックを誇る日本製ドローン

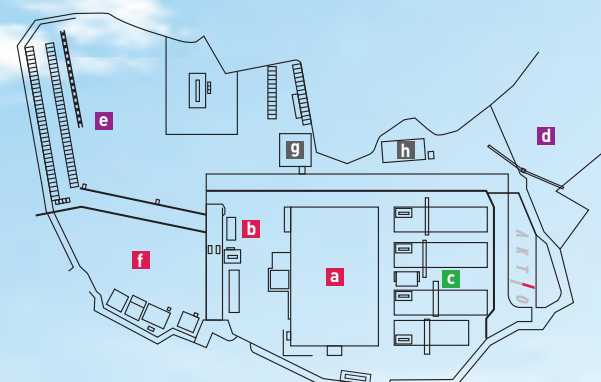
BIM×Drone本格導入までのフロー

	技術検証	運用検証	本格運用 ※開発中
目的	お客様の所有施設にて「BIM × Drone」の有用性を検証	お客様の業務運用における有用性を検証	業務における本格運用(サービス導入)
サービス内容	・ 現場視察:1日 ・ 技術検証:1日 ※現場視察時に実施可否の判断	・ 現場視察 ・ 運用検証 ※検証期間は2週間～1か月程度を想定	・ 運用サポート(問い合わせ対応等) ・ 機体リース(1年間) ・ ソフトウェア提供
運用方法	「BIM × Drone」スタッフにて運用	「BIM × Drone」スタッフにて運用	お客様にて運用(飛行含む)

中国四国地区の総合整備工場・物流拠点！

広島テクノパーク統括工場

約49,062㎡の敷地面積の中にトレーニングフィールド、軌陸機械用の試験線路、ショールームとしての機能を持つ展示エリアなど、多彩なスペースを備えた広島テクノパーク統括工場。AKTIO中国支店管内の総合整備工場として、また中国四国地区の物流拠点として2021年に開設された。内部に排気ガスが入り込まない入出庫スペース、そして高性能の集塵機や各作業スペースにダクトを設置した最新鋭のこの工場は、働く人の健康にも配慮したクリーンな環境となっている。緊急避難道路に指定されている山陽自動車道河内ICから700m、中国四国地方のほぼ中央に位置する立地で、災害時緊急対応の拠点としての役割も担う広島テクノパーク統括工場の見どころをご紹介します。



敷地全体図

a 工場棟 b 給油設備 c クレーンヤード d トレーニングフィールド ICT・林業
e トレーニングフィールド 軌陸機械 f 自動洗浄装置 g 事務所棟 h 厚生棟



■ 給油設備
施設内の給油設備。軽油15,000ℓ、アドブル1,000ℓの備蓄があり、万が一災害時に電力の供給がストップしてもディーゼル発電機の燃料として使用可能。



■ 自動洗浄装置
数時間かかる作業がボタン一つで完了する、自動洗浄装置。省人化、作業効率のアップに貢献している。

3,000kgまで可能、フォークリフトに乗ることでできるエレベーター。



トラックを外に停めた状態で入出庫作業ができるため、排気ガスが工場内に入り込むことなく、クリーンな環境で作業ができる。現場から戻ってきた機械は、入庫点検を行う。各営業拠点から戻ってきた機械も入庫点検に加え、機械の在庫と実在庫に狂いがなければ確認する。その後、各作業スペースと運ばれる。



入出庫エリア



■ 塗装ブース
西日本で最大規模の室内大型塗装ブース。高性能、大型の集塵設備を備え、さらに塗装の飛沫などが外に舞わないように通常の3倍の速さで開閉するシャッターを採用している。



■ 小型機械整備
年齢・性別を問わず動きやすい環境の小型機械整備エリア。女性も多く活躍している。



■ モバイルリフト
30tまでの車体を持ち上げることができるモバイルリフト。可動式のため敷地内の都合の良い場所で作業ができる。



■ 重機車両整備エリア
重機、バックホー、自走式高所作業車の整備を行うスペース。フロアタイプの機械が多いため、床は鉄板。傷なども気にせず、溶接作業までそのまま「床」で行うことが可能。また、これまでは必要に応じて危険物倉庫までエンジンオイルなどを毎回取りに行かなければならなかったが、各作業場所にノズルでエンジンオイル、作動油を引き込む仕組みに、ペダルを踏むだけの廃油回収装置も備え、作業効率を高めた。
工場内に排気ガスが充満しないよう、排気ガス吸引装置も設置している。



■ クレーンヤード
橋型クレーンヤードには4基(2.8t×1.4t×1、15t×2)の大型クレーンが設置されている。

整備エリア

2階の展示エリアでは、AKTIO独自で開発した製品、メーカーと共同開発した製品、グループ会社の製品を紹介。また、VR安全教育システムの体験スペースも常設している。静かな環境でお客様に説明することができ、またじっくり製品を見てもらえるショールームとしての役割を果たしている。ゆくゆくは研修スペースとしても活用する予定だ。



展示エリア

移動ラック640パレット、固定ラック384パレットを誇る収納エリア。入出庫担当者のタブレットから出庫指示が入ると取り出したい製品がある段数にランプが点灯。担当者が迷うことなく機械を取り出せるシステムになっている。
固定ラックには整備エリアで整備が完了し、完成品となった小型機械以外にも、西日本豪雨災害の経験からその当時、需要の高かったブルーシートなどを多めに確保している。



ストックエリア



■ 水中ポンプ整備エリア
5.5kgから22kgまでの水中ポンプ性能を試験することが可能。AKTIO製品のみならず、お客様所有の水中ポンプも検査可能。櫻川ポンプ製作所との協力体制があってこそそのサービスが可能に。



■ 電気関連機器整備エリア
グループ会社のシテクノは照明や分電盤、フリックカー対策機などを扱っている。ここでは大きな電力を使う際に起きる、高周波のちらつきが発生する現象、それを防ぐフリックカー対策機の試験を行うことができる。同じ敷地内にグループ会社があることで、整備や機械出庫がスムーズに行える。

AKTIO TOPICS. 7

最新鉄道工事用機械をアピール

「鉄道技術展・大阪」にAKTIOブースを出展

AKTIOは、2022年5月25日からの3日間にわたってインテックス大阪で開催された、西日本で初開催となる「鉄道技術展・大阪」に出展した。この展示会には、鉄道に関するさまざまな最新技術が一堂に会した。今回AKTIOは、2022年モデルの機械をブース内に展示。「新型軌陸自積載クレーン」、「新型軌陸ダンプ」、「新型軌道保安車660」、「EagleEye®II」、「クローラー型台車(アクロスAKT-600)」の実機とともに、レンサルティング®の取り組み事例を紹介した。

鉄道事業関係者様に実機を見ていただくとともに、現場のニーズに合わせたさまざまな鉄道工事用建設機械と技術力が提供できることを訴求。レンサルティング®によって、工事力の維持、向上に必要な機械や機材を改良・開発し、つねに最新のソリューションでサポートできることを来場者にアピールした。



AKTIOブースには約2,000人が来場した。

AKTIO ACTIVITIES

AKTIOが賛同するさまざまなプロジェクトや社会貢献活動を紹介していきます。

AKTIOと三重県いなべ市が小学生向けSDGsイベント

「AKTIO SDGs体験ワークショップ」を開催

AKTIOは、いなべ市と共同で2022年5月28日、三重いなべテクノパーク統括工場において、いなべ市在住の小学生を対象にSDGs体験ワークショップを開催。

まず、子どもたちに建設業界・建設機械の社会での役割を解説しながら、AKTIOのSDGsへの取り組みを講座形式で紹介。体験型のワークショップでは、環境負荷軽減を学ぶため、家庭で使った食用油を再利用し発電機を動かした。さらに、安全に作業ができるように大型重機を離れた場所からリモコンで操作する様子を子どもたちに見学してもらった。

<AKTIO SDGsの取り組み>

AKTIOは、国連が推奨する「SDGs for School」のパートナー企業として、SDGs目標4【質の高い教育をみんなに】の実現を支援。全国各地で子どもたち向けの体験学習を実施するなど、日常生活でも目に触れる機会のある「建設機械」を通した、持続可能な社会に向けての教育機会を提供している。

その他のSDGsの取り組みはこちら



三重いなべテクノパーク統括工場内で、安全に配慮しながら、子どもたちにAKTIOの取り組みを紹介し、SDGsに対する学びを深めてもらった。

トレーニングフィールド



■教習エリア

事務所棟の隣にあるスペース。高所作業車、クローラークレーン、フォークリフトなどの機械に加え、グループ会社の機械もあり、幅広い実技講習が可能。



■重機トレーニングフィールド

重機のトレーニングが行えることに加え、ICTバックホー、マシンコントロールブルドーザーなどのICT建機を扱えるエリア。



■試験線路(軌陸機械)

軌陸車両の実技、軌道で使う高所作業車やバックホーなどの点検が行える設備。実機でレールを使って脱出訓練できる場所は貴重なため、すでにお客様からの予約が数多く入っている。これからの訓練の場として活用していく予定だ。

皆がイキイキと働き、地域に役立つ拠点として

トレーニングフィールドをはじめ、各種セミナー・勉強会、新人研修など学びのためのスペースが充実。厚生棟は社員の憩いの場となっており、屋根瓦は中国地方特有の石州瓦風に施されている。



敷地内に3%の空地が必要のため、ここにはAKTIOロゴを配置した。広島空港の離発着時に飛行機内からも目に入る。また、緊急避難場所にも指定されている。



セキュリティの強化がなされた入場管理システム。事務所とモニターでつながっており、来場者数の把握、来場車両の誘導もでき、受付の省人化、社員の出勤状況の把握が可能。



(右)2階会議室
(左)リモート会議のために作られた大きなモニターのあるTV会議室



厚生棟

休憩、ミーティングスペースに活用されている憩いの場。160名分のロッカー、シャワー設備があり、災害時の拠点として使用できる。建物裏には井戸水の設備もあり、1日に飲水用25m、手洗い洗浄用25m、合計50mを備えている。

古賀博之課長

今までの災害経験から、災害を意識した、いざという時に拠点になれる工場となっています。新しい取り組みも多く行っておりますので、広島テクノパーク発信で近隣エリアの支店・工場をフォローできる取り組みがきっとできると考えています。

福田正樹工場長代理

工場内は壁が少ないため、フレキシブルな対応がしやすく、いい環境だと感じています。照度やグリーンな空気など、社員のみんなが前向きに業務に向かえる、働く人の環境をよく考えた施設です。





株式会社アクティオは、
2022年5月15日をもちまして設立55周年を迎えました。
これもひとえに皆さま方のご最良・ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

5月15日は『アクティオ・建設機材レンタルの日』！ 一般社団法人日本記念日協会より正式に記念日登録がされています。



左)一般社団法人日本記念日協会 代表理事 加瀬清志様、 右)株式会社アクティオ 代表取締役会長 CEO 小沼光雄

AKTIOは、「創造と革新」の社訓のもと、レンタルに付加価値の高いコンサルティングを組み合わせた「レンサルティング®」という新しい概念を軸に、お客様の課題解決に向けて、日々、提案型のレンタルを展開しております。

SDGsという観点からも商品の開発に取り組んでおり、屋根にソーラーパネルを積んで電力を自給自足する「オフグリッドハウス」「オフグリッドオフィスカー」やウイルス感染対策の「仮設陰圧ハウス」などの商品開発を行いました。

また、1台の機械をさまざまな現場に貸し出しているため、機械を有効活用していることに加え、レンタルされた機械が戻ってきたらきちんと修理・整備をし、次の現場へレンタルするというサイクルで繰り返し機械の貸し出しを行っています。建設機械をレンタルすると、各会社や現場で機械を買う必要がなくなるため、建設機械を作る金属などの資源を無駄にせず大切に使うことができます。正に建設機械レンタルは、資源を大切にする循環型ビジネスであり、AKTIOはそれを実践しながら、持続可能な社会へ大きく貢献できるよう、日々、邁進しております。

2020年、当社、設立記念日である5月15日が「アクティオ・建設機械レンタルの日」として制定されました。

AKTIOは、建設機械レンタルの草分けとして、そして業界のリーディングカンパニーとして、55周年を機にますます精進し、さらなる飛躍につなげてまいりたいと思います。

編集後記

8月となりお盆の時期が近付くと、地元の盆踊りや花火大会を思い出します。小さい頃は、祖母が作ってくれた浴衣を着せて貰い、高校生から大学生あたりは、母が着ていた浴衣を着せて貰い、社会人になってからは、自分で好きな浴衣を買い、着付けを勉強して自分で着付けたり、友達と着付けあったりして、花火大会などに行っていました。祖母や母は、簡単に浴衣を着付けてくれていたように思えたのですが、自分で着付けたり、誰かを着付けたりするのは、なかなか難しく、毎年苦労していました。以前、静岡県伊東市の花火大会に旅行がてら友達と行くことになり、浴衣を着ようということで、浴衣持参で向かいました。お互いの浴衣を着付けあったり、メイクをしたり、髪の毛を纏めたりしていたらかなり時間がかかってしまって、花火が始まるギリギリ

に会場に到着となってしまいました。しかも、冷房が効いた部屋で着付けていたにも関わらず、汗だくでメイクも少々崩れ気味に…。なんだかバタバタした花火大会でしたが、今となっては、夏のいい思い出です。浴衣には暑い日本の夏を快適に過ごす工夫が凝らされており、白地の浴衣は昼間で、家の中で着ると真夏でも涼しく過ごせますし、見ていても涼やかに感じられます。紺地の浴衣は紺色に染めるために使われている「藍」の香りを虫が嫌うことから、虫の多く出る夕方から夜にかけて着用するのが良いとされているそうです。ここ数年、浴衣は着ていなかったのですが、今年は浴衣の良さを再認識しながら、好きな柄の浴衣を買って、久々に自分で着付けてみようかなと思いました。

広報部 成澤



今号の表紙写真

最先端の技術力でお客様のご要望に応え続けるAKTIO。そのAKTIOのDX化が、社会に広がっていくイメージを日が昇る都市の写真とともに表現しました。AKTIOの今後に欠かせないITグループの新サービスや取り組みについて、ぜひ今号の特集をご覧ください。